

して工場へ歸らせないから、後で迷惑は起りません。

四、主人の留守中にうちに病人でも出来た時は、會社で出

来るだけの事をいたしますから、知らせて下さい。

五、この間、ゆめさせた百四十六名の人は、どんな事があつても

決して、工場へ歸らせませんし、わるい人は今後でもどし

どしゆめさせますから、うちの方にもよく相談して、間違の

ない様にして下さい。

六、會社に何か頼みたい事があつたらどしどし申し出て下さい。

十九日午後

◎第九工場作業開始に就いて

爭議勃發以來既に三句を経過いたしました、この間本社は萬難を排して客月廿七日第十七工場の作業を開始し、次て去る七日第三工場の埴詰作業を始め十六日又第九工場の作業を開始いたしました。これは偏に大方各位の御聲援と地元及附近町村各位の直接間接の御援助とに外ならぬ事でありまして、深く感謝の意を表する次第で御座います。第九工場は特に政府の認可を得假置場として、輸出醬油八割を占むる龜甲萬の生産を致して居ます。これを開きますのは罷業長期に及ぶとき、さなきだに不振に歎く海外貿易に幾分にも悪影響の少なからんことを念とするのであります。他面本社が刻苦開拓せる海外販路の閉塞を防ぎ國家的損失を及ぶ限り少なからしめんとするが爲であります。大正十二年以降提撕誘掖一意工員達の自覺を念として、五年に彌る會社の忍従と襟度とは各方面の御了解を得、今や爭議團より頻發する幾多の悪宣傳にも拘はらず、地元町民諸氏は或は正義團を組織して嚴正批判の態度を明にせられ或は勞務を提供して、操業に便せらるゝ等經過は頗る會社側に有利に進展致しまして之れが爲め爭議團員中からは義を見て勇む正義の人々續出し壓迫と脅迫とを物ともせずして、敢然復歸して就業する等爭議終熄の曙光も認め得る